2　授業参観チェックリスト(案)

重点項目…授業者が見てもらいたい視点について、最重点項目を◎、重点項目を○で記入する
評価…参観者がチェックする。（３…とてもできている　２…できている　１…もう少し）

授業者の重点項目	授業作りの視点	参観者の評価
	【教師の指示・発問】	
	○子どもの方を向き、子どもの様子を確認しながら、指示や発問をしているか。	
	○具体的な指示を出しているか。	
	○指示や説明は短く、的確に行われているか。	
	○意図的な指名を行っていたか。（公平・実態）	
	○ねらいに即した発問であったか。	
	【教材研究】	
	○授業のねらいは適切であったか。	
	○実物を見せたり、操作したりして、興味を持たせられたか。	
	○過去の学習や実体験と結びつけて、興味を持たせられたか。	
	○ねらい達成までの道筋を示すことができたか。	
	【授業展開】	
	○1時間の見通しが立っているか。	
	○導入で、興味・関心を持たせているか。	
	○子どもの発表や考えを取り入れた展開になっているか。	
	○ペアあるいはグループでの話し合い、共同作業、調べ学習など、ねらいに応じた学習形態を取り入れているか。	
	○言語化する、動作化する、劇化するなど、様々な学習方法を用いているか。	
	○まとめでは子ども達が納得した結果になっているか。あるいは、まとめを十分に理解しているか。	
	【教育技術（板書・ノートの取らせ方)】	
	○板書において、重要語句や大切な内容は、チョークの色を変えて、囲んだり、下線を引いたりしているか。	
	○思考の流れをくんだ板書になっているか。	
	○重要なことや覚えて欲しいことは、消さずに残しているか。	
	○どのページに、何を書くかが明確になっているか。	
	【指導方法】	
	○机間支援をして、頑張りを賞賛しているか。	
	○ヒントを出すなど、個に応じた支援をしているか。	

3　通常の学級で活用しやすい個別の指導計画書式(案)

フェイスシート(実態把握表)（例）

氏名	○○　○○	生年月日	平成・令和○○年○月○日

学習面	【目標達成にかかる手がかり】をここに記入する ・課題を早くやってしまい、暇になると離席する。 ・調子が悪いと朝から教室を出てしまう。 ・25分過ぎると、黒板に出てきて教師のまねをしてチョークで字を書く、トイレに行く、中庭に水やりに行く。教師が声をかけると戻ってくる。 ・目立つことが好きで、挙手して発言するのが好き。
行動面	【目標達成にかかる手がかり】をここに記入する ・作業は早く、はさみを上手に使う。 ・目立つことが好きである。
対人関係面	【目標達成にかかる手がかり】をここに記入する ・被害妄想があり、友達が自分の使っていたボールを蹴ったという理由で怒ってたたく。（本児の使っていたボールは違うところに転がっていた） ・授業中に友達にちょっかいを出すと、支援員と一緒に廊下でクールダウンしたり、図書館に行ったりしている。
検査結果	・令和○○年○月○日　ＷＩＳＣ－Ⅳ実施 ・検査結果 ＦＩＱ　　ＶＩＱ　　ＰＩＱ
家庭状況	・父、母、姉、本人、弟 ※　特記すべき事項があれば記入する。
その他 配慮事項	・○○○のため△△病院通院　等

令和　　年度　個別の指導計画(例)　－相談記録の活用－

氏　名	○○　○○	生年月日	○○年○○月○○日
クラス	○年　○組	担　　任	○○　○○

＜長期的な目標＞
①友達とうまくかかわって欲しい。
②自分の席に座って授業を受けて欲しい（教室外に出ないで欲しい）。

＜中長期的な目標または短期的な目標＞
①授業中、ドリルを配るなどの手伝いを通して、適切に友達にかかわることができる。
②1時間の授業の中で、25分以上席について課題をこなすことができる。

＜手立て＞
【前期】
①について
・配付物を配るように本児に頼む。また、配ってもらった時にお礼を言えた他児を取りあげて褒め、「どうぞ」「ありがとう」と言い合える学級を作る。
②について
・ものを持ってくる、配るなどの手伝いを頼むことで、役割を果たすことで離席する機会を意図的に作り、気分転換させる。
・プリント課題を用意しておき、本児に与えることで暇な時間を少なくする。
・一斉指導において、教科書以外の例題問題を問いかけることで、本児が発表できる機会を設けて、授業に意欲的に取り組めるようにする。
【後期】
①について
・継続
②について
STEP 1
・ものを持ってくる、配るなどの手伝いを頼むことで、役割を果たすことで離席する機会を意図的に作り、気分転換させる。
・プリント課題を用意しておき、本児に与えることで暇な時間を少なくする。
・一斉指導において、教科書以外の例題問題を問いかけることで、本児が発表できる機会を設けて、授業に意欲的に取り組めるようにする。
STEP2
・授業開始30分を過ぎたら、指名して答えさせる、前に出て発表させるなど、学習面で活躍できる場面をつくる。
・学習に対する集中力を切らさないように、鉛筆やプリントなどを落としてしまったときには、本人にやらせるのではなく、教師がそれとなく拾ってあげることも必要である。

＜評価＞
①について
・本児が授業中に出歩かなくなったので、トラブルが減った。友達とのかかわりは一方通行だが、友達が成長したことにより、クレームが減少した。
②について
・離席することはなく、教師の質問に積極的に答え、正答すると喜ぶ様子が見られた。
・手悪さをすることもあるが、本児の発表を担任が注目して聞いている様子が伝わり、満足して授業を受けられるようになった。

【資料10】学校スタンダードの確立①

【草案】〇〇小学校学習スタンダードにおける特別支援教育に関する視点（案）

	学力向上の視点	特別支援教育の視点	手立て
問題把握	（学習課題） 問題提示	目標の焦点化	・評価基準のように、目標を３種類設定
	見通しをもつ	時間の構造化	
	授業の流れを目で見える形で提示	・児童の気持ちの安定 ・終わりの明確化 ・簡単な手順表の明示化	・板書計画（色チョークの有効活用） ・ノートの工夫（子どもが写すところが分かるように枠で囲む、マグネットを置く等）→授業全体で
	課題提示：問題を表記、問題を精選 短く、分かりやすく 具体的な指示	・課題の焦点化	・課題に取り組む時の補助になるような視覚教材（図、絵）の準備。 ・課題解決に向けたやり方を先生が実際にやって示す。 ・授業で使う絵カード、フラッシュカード、キーワードを書いたカードなどを作成し、提示。
自力解決	自分のことばで表現	・自己決定（自分の考えを持つこと）、自己存在感（人の意見に注意を払う）、教材そのものの楽しさが意欲につながる。	・自分のことばで表現できない場合、自分の考えを書くパターンの習得 ・気持ちを表現することを習得 ・緊張が強い子、話す力が弱い子の発表準備
学び合い・集団解決	ペアやグループで考える 自分の考えを発表 児童の実態等に応じて思考する場の工夫　（ペア学習、グループ学習、つまづいている子を集めての指導）	・共有化 ・個々の特徴に合わせた発表スタイル ・作業や動作化で、学習意欲継続 ・簡単な手順表の明示化	・他児との活動（やりとり）の練習 ・発表の練習（個別練習を先生が聞く） ・思考に合わせた学習スタイルの獲得､反復練習、発展性の課題、ステップアップ
	友だちの考えを聞く	・見て学ぶ（モデリング） ・考えたこと、発表したことの視覚化 ・自分とは違う考え方があることを知る ・他の考えを聞くことのメリットを知る	・聞き方のルール習得
		・集中力が持続するような時間設定	・いくつかのステージに分けて
まとめ	キーワード、キーセンテンスなどを元に学習課題のまとめ	・共有化 ・学習内容の焦点化	・学習内容の反復で、知識の習得
振り返り	振り返り 自分のがんばったことを振り返る	・達成感、自己肯定感を高める ・終わりの明確化	・めあてができたことを先生の言葉で、理由を付け加えて本人にフィードバック

学習・生活全般	学級での学習の決まり	・　ルールの明確化
	クラスの人間関係の形成	・　一人一人の特徴について、クラス内で理解促進
	担任と児童の信頼関係	・　児童が話しやすいクラスづくり

【成案】「〇〇小学習スタンダードにおける特別支援教育に関する視点」

	学力向上の視点	特別支援教育の視点	手立て
1 問題把握	【学習課題の設定】	・目標の焦点化	・評価規準を踏まえて３段階で目標設定 ・めあてを行動目標で表現
	【課題提示・問題提示】 ・課題や問題の板書 ・問題の精選 ・短く、分かりやすく ・具体的な指示	・課題の焦点化	・課題に取り組む時の補助になるような視覚教材（図、絵、文字カードなど） ・課題解決に向けたやり方の示範（モデルの提示）
	【見通しを持つ】 ・授業の流れを視覚的に提示	・時間の構造化 ・手順の視覚化 ・終了の明確化 ・見通しを持つことによる気持ちの安定化	・板書計画（文字の大きさ・色、図の配置場所など） ・ノートテイク指導の工夫（写すところが分かるように枠で囲む、マグネットを置く等）
2 自力解決	【自分の言葉で表現】	・自己決定（自分の考えを持つ） ・自己存在感（人の意見に注意を払う） ・教材そのものの楽しさ（単元・題材）	・発表内容のまとめ方、発表の仕方を学ぶ機会の保障 ・自分の気持ちの表現の仕方 ・緊張が強い子、話す力が弱い子の発表準備
3 学び合い・集団解決	【友だちと考える①】 ・ペア学習、グループ学習、つまづいている子を集めての指導 ・自分の考えを発表 ・児童の実態等に応じて思考する場の工夫	・情報の共有化 ・発表の個性化 ・学習意欲継続のための動作化 ・手順の視覚化 ・学習のモジュール化	・他児との活動（やりとり）の機会設定 ・発表の練習（個別練習を教師が聞く）の機会確保 ・学習スタイルの獲得、反復練習、発展的課題の提供 ・集中可能な活動時間
	【友だちと考える②】 ・友だちの考えを聞く ・多様な考えを知る	・見て学ぶ ・考えたこと、発表したことの板書	・聞き方のルール ・他者の意見を聞くメリット
4 まとめ	【学習のまとめ】 ・キーワード、キーセンテンスなどを元にまとめる	・事実の共有化 ・結果の類型化	・繰り返して取り組む時間確保 ・短くて、分かりやすい言葉による集約 ・同じ考え、違う考え
5 振り返り	【振返り】 ・自分のがんばったことを振り返る	・終わりの明確化 ・成就感、達成感、自己肯定感の向上	・各自の目標に合わせて評価。 ・めあてができたことを子どもの言葉でフィードバック ・「できたこと」「分かったこと」に、理由を添えて評価

全般	学級での学習の決まり	・ルールの明確化
	人間関係の形成	・一人一人の特徴について、クラス内で理解促進
	担任と児童の信頼関係	・児童が話しやすいクラスづくり

1 『1 問題把握』の過程における「特別支援教育の視点」の具体例

（1） 目標の焦点化

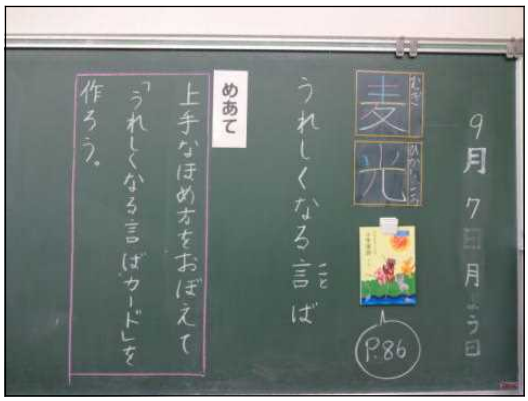


写真1

写真2

- 本時の到達点を子どもに分かりやすく伝えるために、学習の「めあて」を板書し、学習内容の確認をする。（写真1）
- 学びの主体である子どもが、今日の授業ですることを言語化できるようにするために、教師が文字と言葉で伝える。（写真2）

（2） 課題の焦点化

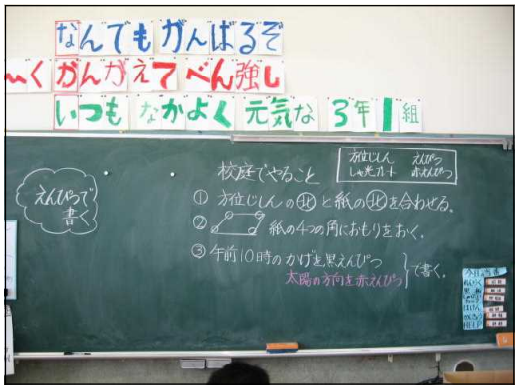


写真3

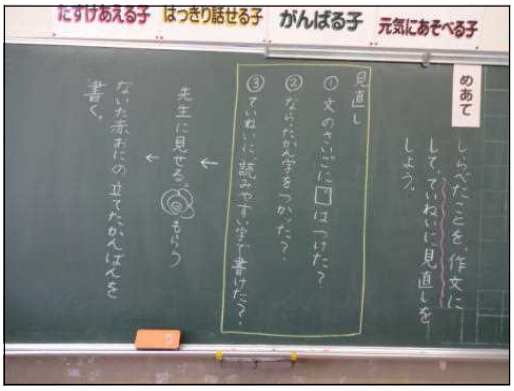


写真4

- 何が問題なのか、何を解決すればよいのかということをつかめるようにするために、手がかりとする簡単な絵や図を示す。（写真3）
- 子どもに指示する内容を正確に伝えるために、（音声言語だけでは消えてしまうので）教師が指示の内容を文字で示すとともに、机間指導により個別に指導をしていく。（写真4）

（3） 時間の構造化、手順の視覚化、終了の明確化、気持ちの安定化

① 今やることを分かりやすく示す

写真5

写真6

写真7

・ 子どもが自分で気付いて活動に取り組むため、活動内容をカードに描いて提示する。自分から活動に取り組む手がかりにする。（写真5～7）
・ 活動の見通しを持ちやすくし、安定した気持ちで活動に取組めるために、時間を添えたり、タイマーで伝えたりすると、伝わりやすくなる。

② みとおしを持ちやすくするためにスケジュールを示す

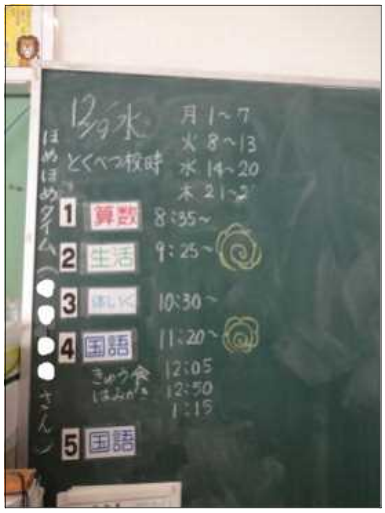


写真8

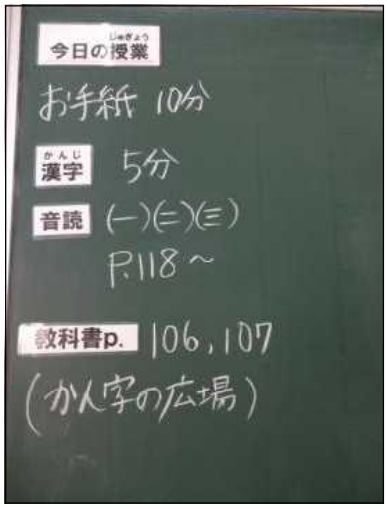


写真9

・ 学習の見通しをわかりやすくするために、時間割を板書しておく。特別校時には、始まりの時間も記入しておくことで、時間を守り学習の始まりもスムーズである。授業の始まりが守れた時に、担任が子どもたちに花丸をつけて褒めている。（写真8）
・ 授業の見通しが立ちやすくなるために、授業の流れを板書する。そうすることで安定した気持ちで学習でき、活動の切替えがスムーズになる。（写真9）

2 『2 自力解決』の過程における「特別支援教育の視点」の具体例

自己決定、自己存在感、教材そのものの持つ楽しさ

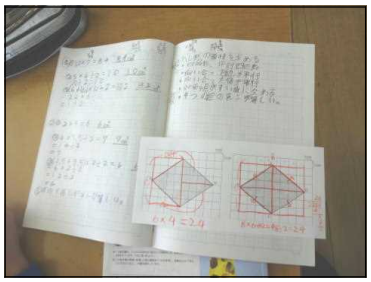


写真10

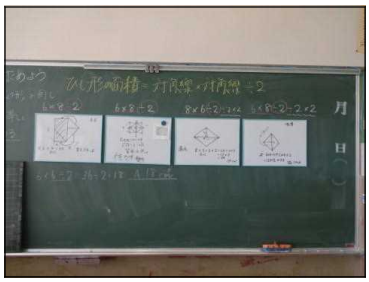


写真11

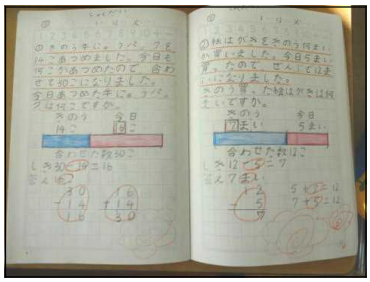


写真12

・　自力で面積を求める方法を見つけやすくするために、図形ワークシートに補助線を入れたり、はさみで切ったりしている。また、自力解決の時間に、教師が個々の考えを見極め、ホワイトボードに記入させていく。（写真10、11）
・　子どもが自己存在感を味わえるようにするために、自分の考えをホワイトボードに書いて黒板にはり、発表する。各自の得意な力を生かし、書く人と発表する人が協力し合うこともある。書く時間の短縮や、各自の考え（結果）の類型化、共有化にも役立つ。（写真11）
・　算数の文章問題では、自力解決の手立ての1つとして、「分かっていることには実線」「聞いていることには波線」をひいて整理。テープ図の色分けについても学級で統一している。（写真12）

写真13

写真14

写真15

・　教材の楽しさを味わうために、国語の読み取りの時に、班ごとに動作化を取り入れた。（写真13）
・　生活科では、1年生向けのフェスティバルで使う道具づくりを行った。普段の授業ではなかなか活躍する機会の少ない子どもも、自分の担当したものを一生懸命作ることができた。（写真14）
・　子どもが教材の楽しさを味わえるようにするために、ペープサートを取り入れた。子どもたちは登場人物の絵を丁寧に描き、発表練習にも楽しんで取り組んだ。（写真15）

3　『3 学び合い・集団解決』の過程における「特別支援教育の視点」の具体例

（1）　情報の共有化、発表の個性化、動作化、モジュール化

写真16

写真17

写真18

写真19

写真20

写真21

・　発表の場面で情報を共有することと、落ち着きに欠ける子どもでも学び合いができるようにするため、自分の考えをクラスの3人に伝え、聞いてもらった友だちにサインをもらう。当初、落ち着いて行動するまでに時間がかかった子どもも、経験を重ねる中で、相手を見つけて発表ができるようになった。（写真16、17）

・　発表のやり取りがスムーズに行えるために、まずはワークシートに一人で取り組み、その後、班になって、交代で発表し合う。友だちの意見を良く聞く姿が見られ、友だちに分かりやすく、ゆっくりと話す子どもの姿も見られる。（写真18、19）

・　〇〇小学習スタンダードの「自力解決」→「学び合い」を各学級で実施中である。高学年になると、友だちの意見をメモし、自分の考えと比較しながら自分の考えにどう活かしていくかが指導のポイントになっている。（写真20、21）

（2） 見て学ぶ、考えたことや発表したことの板書

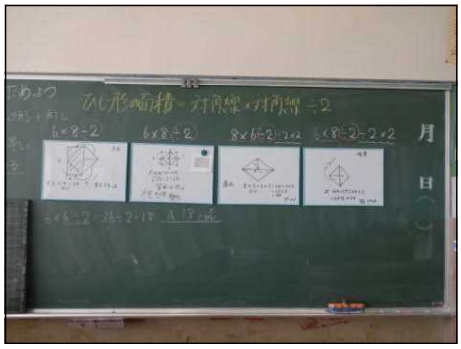


写真22

写真23

・ 多様な考え方に気付くことができるようにするために、ホワイトボードを活用。教師が補足説明しながら、いろいろな解き方があることと、そこから導き出される公式につなげていく。子どもの発想から公式を導き出すことで、学習内容の定着が図られている。（写真22）
・ 自分の考えをホワイトボードに書いて発表しあう場面では、限られたスペースでの説明を工夫する姿を積極的に賞賛していく。（写真23）

4 『4 まとめ』の過程における「特別支援教育の視点」の具体例

事実の共有化、結果の類型化

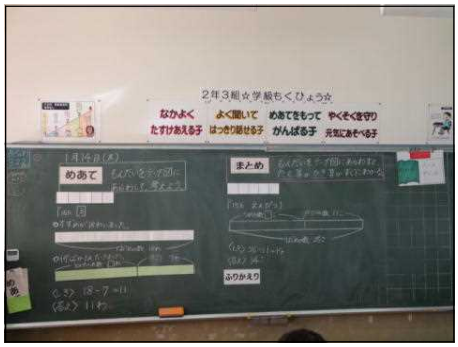


写真24

写真25

・ 子どもが主体的に活動できるようにするために、めあて→本時の学習の内容→まとめ→振り返りという「〇〇小学習スタンダード」の流れで授業を進めている。そのための重要なツールが黒板である。担任が授業の見通しをもち、予想を立てて板書計画を行うことで、学習内容の定着につながる。（写真24）
・ 学習のまとめとして、事実を共有化するために、国語の読み取りのワークシート（ふきだし）に記入したものを担任との動作化で発表。発表した子どもは達成感もあり笑顔で席に戻った。学級の児童も発表に集中して聞いていた。（写真25）

5 『5 振り返り』の過程における「特別支援教育の視点」の具体例

終わりの明確化、成就感・達成感・自己肯定感の向上

写真26

写真27

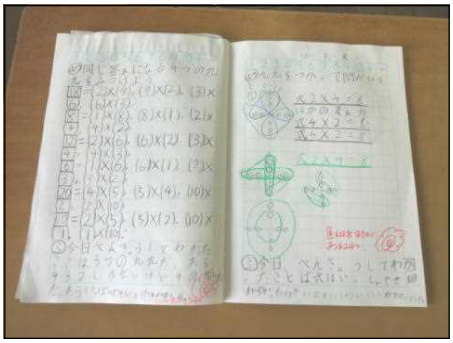


写真28

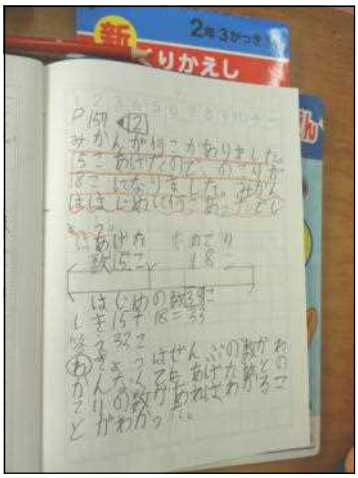


写真29

・　成就感や達成感を味わい、自己肯定感を高めるために、「振り返り」の時間を大切にしている。「今日の学習で①分かったこと②気づいたこと③がんばったこと④友だちから学んだこと」をノートに記入する。教師は、「よく書けているね。」など、一言評価を欠かさず行う。（写真26）

・　自己肯定感を高めるために、学習のまとめとして新聞作りをし、友だちの新聞に付箋で感想（肯定的な表現で記入することが約束）をはっていく。友だちから感想をもらうと嬉しそうにしている。（写真27）

・　ノートに書いた振り返りの文章：「ふりかえり；今日べんきょうしてわかったことは、3つの九九だったら4，3，2しかないけど、4の九九になったら、いっぱいできることがわかりました。」と子どもが記入。教師は、「担任より：いいことに気づけたね。」と文章で返していく。（写真28）

・　「わかったこと：きょうはぜんぶの数がわかんなくても、あげた数とのこりの数があればわかることがわかった。」と記入した。（写真29）

6　その他

（1）　学級のルールの明確化

写真30

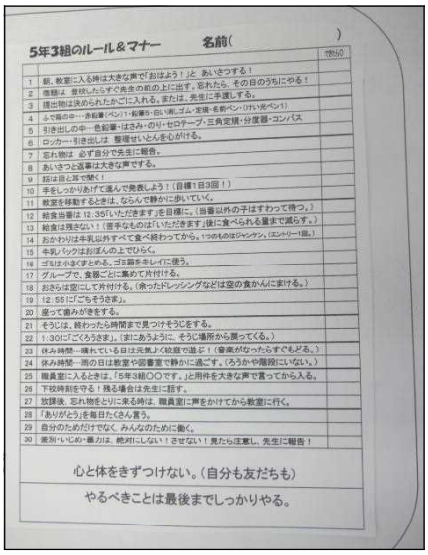


写真31

写真32

写真33

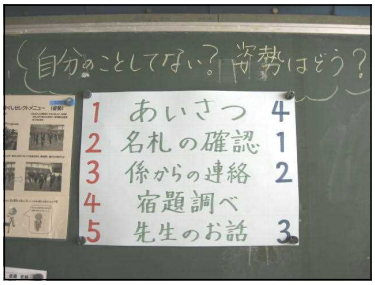


写真34

・　今年の自分の生活を振り返り、まず個人の課題を出しあった。それを学級会で発表し合い、それぞれの目標だけにとどめず、学級憲法十七条にまとめ上げた。（写真30）

・　学級のルール＆マナーを教室の出入り口に掲示して、定期的に自分の振り返りも実施している。（写真31）

・　挨拶の時の姿勢、声の大きさ、先生に注目することなど、基本的なルールが守れている。個々の困り感を解消しようとする前向きな教師の取組により、学級が落ち着いている。（写真32）

・　座席の4人グループでの宿題調べや回収を交代で行う時の当番表を分かりやすく提示している。（写真33）

・　朝の会、帰りの会の時に、日直が司会進行をスムーズに行えるように教室後方に掲示している。左側の数字が朝の会の時の順番、右の数字が帰りの会の時の順番。「自分のことをしてない？」「姿勢はどう？」などの言葉は、教師が日直に自分の態度を振り返るように、投げかけている言葉。簡略な言い方で、やるべきことが分かり、児童が自分で動けるようにするための配慮がある。（写真34）

（2） 学習環境に関する視覚教材例

写真35

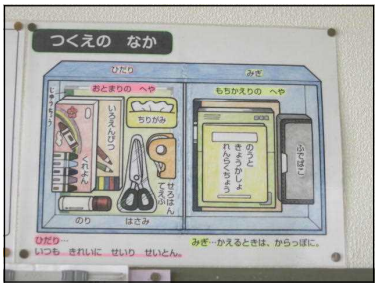


写真36

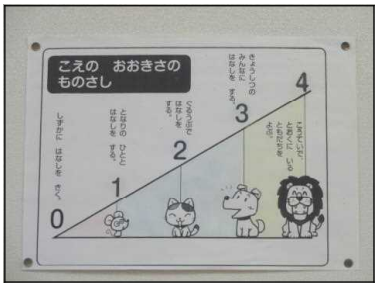


写真37

・ 低学年では、学校や学習の基本として姿勢、机の中の整理、教科書ノートなどの置き方などを視覚的に掲示。（写真35、36）
・ 日常の指導の中で基本的な習慣が定着できると、クラスも落ち着き、学習もスムーズに進むようになる。
・ 「声のものさし」を掲示、指導の中でも担任から「3の声で言ってみよう」などの声かけをして有効に使っている。（写真37）

写真38

写真39

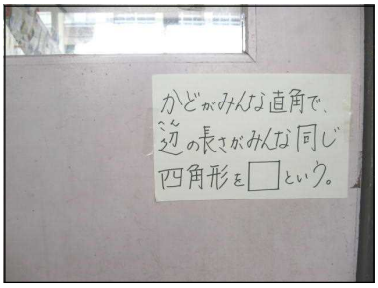


写真40

・ 4月の時に掲示した学級名簿をはり、みんなの自主勉強ノートを積み上げている。「名簿が隠れるくらいまで、取り組もう」と担任から呼びかけて始まった取組。子どもたちはよく取り組み、今半分くらいのところまでの高さになった。（写真38）
・「12月のチャレンジ」の掲示は、学級みんなで達成する具体的めあてを掲示。達成できたら学級でお楽しみ会をしている。（写真39）
・ 算数教室に既習事項を書いてはり出している。計算の仕方の簡単な説明や、計算のコツなどがある。授業中に、それを手がかりにして、既習事項を思い出す子どもの姿も見られる。自力解決のための手がかりとして有効な取組だ。（写真40）

（3） 学校生活に関する視覚教材例

写真41

写真42

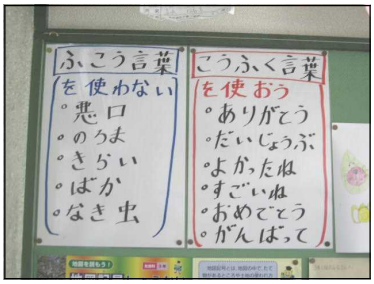


写真43

・ 全校朝礼では、視覚教材を用いて分かりやすく話を伝えている。「考える」「振り返る」「切り替える」「無事帰る」ということを伝えるために、かえるの絵を使った。時には、パワーポイントを活用したり、模造紙に学校生活で心がけてほしいことを大きく書いて提示している。（写真41）
・ クラスの子どもが頑張れた時に、担任がこのマークを書いてほめる。特別な時には、ノートに書くので、子どもたちの励みにもなっている。掲示用のカードも作成し、活用している。（写真42）
・ 適切な言葉、不適切な言葉について「こうふく言葉」「ふこう言葉」としている。子どもが「ふこう言葉」を使った時には、この紙を指さして、不適切な言葉を使わないように伝えている。（写真43）

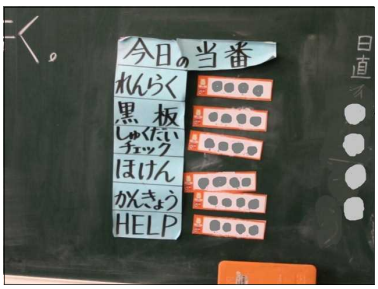


写真44

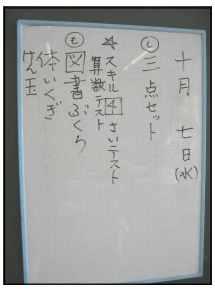


写真45

写真46

・ クラスの係は5人組で編成。月曜から金曜まで担当を決めて、週代わりで行う。帰りの会の時に、今日の担当が係活動ができたかどうか、自己評価している。帰りの挨拶の後、明日の担当が自分のネームプレートを黒板にはって帰る。（写真44）
・ 連絡帳を書く時間がなかなか取れないのも担任の悩み。このクラスでは、給食後、連絡帳に書く内容をホワイトボードに書いておく。それを見て、子どもが給食、歯磨き後に時間があれば書くルール。（写真45）
・ 名札を入れるポケットを活用している。このクラスでは、朝の準備（ランドセルから学習用具などを机に入れる等）がなかなかできない子どもへの支援として、ホワイトボードに準備の項目を書いたところ、それを見ながら自分でできるようになった。（写真46）

（4） ノート指導の具体例

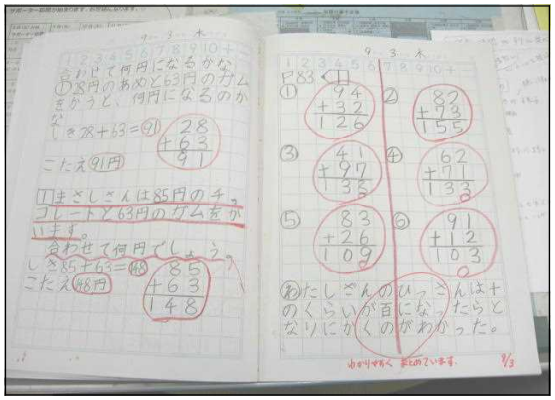


写真47

・ 算数ノートを半分に区切り、筆算を書かせる。計算もしやすく、〇付けをする時も見やすいノート指導をクラス全体で徹底している。
・ 教師からのコメントを書くことが、子どもの達成感につながるよう、教師がコメントを書くよう努めている。（写真47）

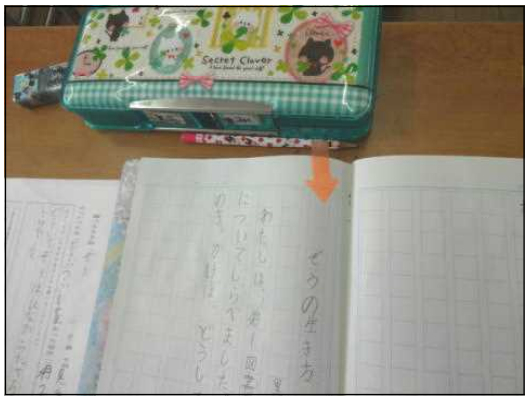


写真48

写真49

・ ノートの書き始めが分かるようにするために、書き始めのページに、教師が矢印の付箋を貼る。下書きができたら、教師は赤ペン指導をして、子どもが自信を持って書き上げる姿を見守る。（写真48、49）

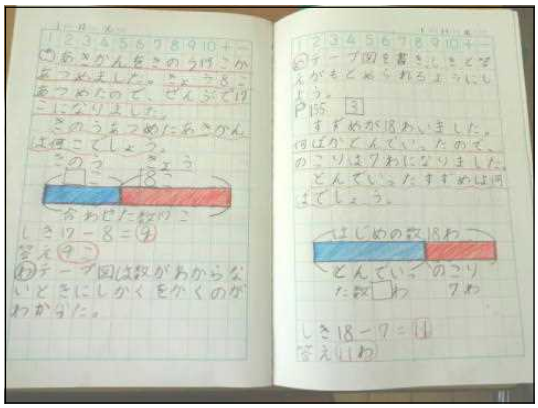


写真50

・ 板書では、色チョーク等で説明を分かりやすく書くと、子どもたちも同じように、色鉛筆でノートに写す。ノートを見れば学習内容が子どもにもきちんと分かるように整理されている。（写真50）

（5） 人間関係形成

写真51

写真52

写真53

・ 他者との関係をよりよく築けるようにするためには、隣の席の子の優しいサポートや集団遊びへの誘いなどがあると良い。友だちの個性を受け入れ、相互理解が進んでいく。そうした積み重ねにより、友だちと一緒に活動する時間が増えていく。（写真51、52）

・ 「ベストフレンド」という活動で人間関係づくりの基礎を培う。一人一人の名前を書いた紙を大きなびんに入れておき、日直がそこから1枚を引く。そして、引いた紙に書かれている友だちに、1日のうちに「その人のために何かをしてあげる」というルールで、「出す」びんから1枚引いて、してあげたら、「入れる」のびんに入れていく。帰りの会では、日直からどんなことをしてもらったかということを発表していく。子どもたちは、いいことをしてもらったり、してあげたりしたときの気持ちを経験できる。（写真53）

（6） 子どもと教師との信頼関係

写真54

写真55

・ 年度初めから校長先生が子どもと一緒に遊ぶ。若い先生を中心に子どもと遊ぶ教師の数は増え、2学期になると支援員さんも参加した。子どもの休み時間は、教師の子ども理解の時間となった。（写真54、55）

【資料11】学校スタンダードの確立②

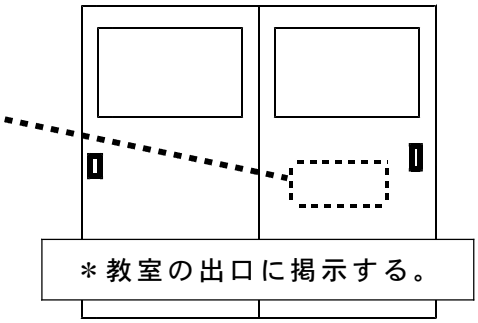
1　授業と休み時間の区別をはっきりと付ける。

（1）　チャイム始業、チャイム終業

・　チャイムと同時に号令をかけ、チャイムと同時に終了する。

・　教室を移動する時は、間に合うように早めに移動する。移動は無言で移動する。おしゃべりしながら移動すると、次の授業にまで、騒がしい雰囲気を引きずってしまう。

（2）　次の授業の準備をしてから休み時間にする。（机に何を置いておくか示す）



2　授業中のきまり

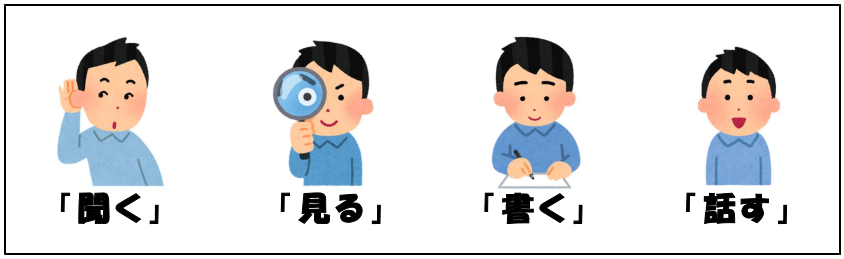
（1）　机の上には教科書、ノート、筆箱を置く。下敷きは必ず使う。

（2）　指示を視覚化する。

・　め あて　も んだい　ま とめ　よ そう　け っか　か んそうなどのカードを使う。

・　黒板に授業の流れを示し、見通しをもって学習できるようにする。

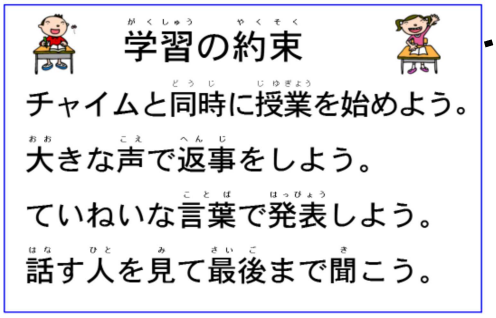
・　「聞く・見る・書く・話す」カードを使い、指示を視覚で示す。

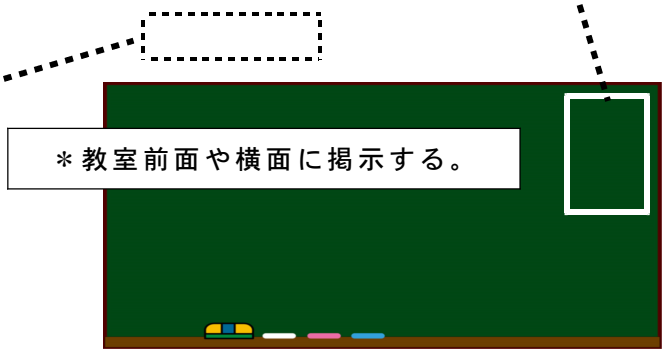


＊授業の流れ（例）

1　めあて
2　予想する
3　自分で考える
4　友達と考える
5　まとめ
6　ふりかえり

（3）　発表の時は、「です」「ます」の言葉遣いで発表する。





（4） ノート指導の工夫（ノートは写すだけでなく活用する）

① ノートの役割を共通理解し、児童にも伝える。

・ ノートを見やすくし、授業内容の理解を助ける。

・ 振り返り（ノートを使った復習）をする。

・ 学年が代わり、指導者が替わっても児童が混乱しないようにする。

② 書式を統一する。

・ 日付、ページ、単元名、問題番号を書く。

・ めあてを書く。

・ 書き出しの列をそろえ、マスや行に文字をそろえる。（はみ出さない）

・ 大切なところは、色を使い分けて書く。（赤鉛筆、青鉛筆、マーカー等）

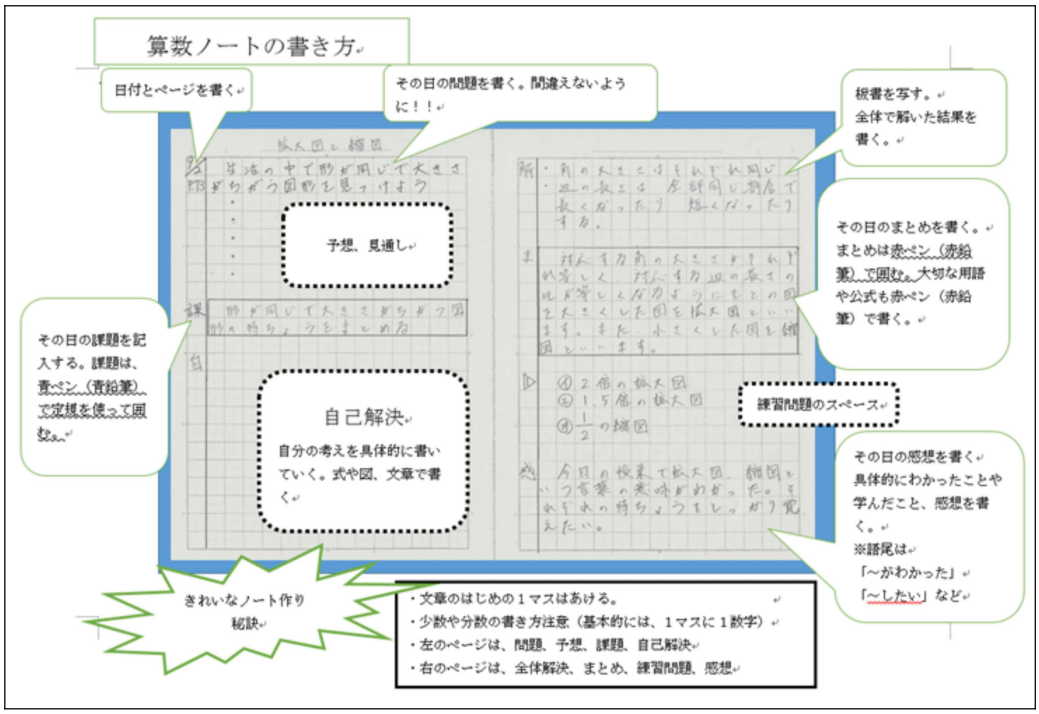
・ 大切なこと（「まとめ」など）は、線で囲んで「コラム化」する。

・ 線を引くときは、定規を使う。（分数、筆算の時も使う）

③ 良いノートを紹介するなどして、教室内で共有化を図る。

④ 「書く時間」「考える時間」を確保し、黒板を写すだけで満足させない。

⑤ 高学年は教師の言葉をメモしたり、必要なことを書き加えたりして構造化する。



（4） 板書とノートをリンクさせる。

・ 黒板を３分割してノートと同じ縦長の画面をつくる。

・ 低学年は必要に応じてマス目黒板を使う。

・ 「1マスあける」「1行あける」の表示を使い、視覚的に分かるようにする。

・ チョークの色と鉛筆の色（黒、赤、青等）を合わせる。

＊マス目黒板の使用